

報告事項ウ

鳥取県教育審議会第3回学校運営分科会の概要について

鳥取県教育審議会第3回学校運営分科会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成22年2月9日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

鳥取県教育審議会第3回学校運営分科会の概要について

1 日 時 平成22年1月22日(金) 10:00～12:00

2 場 所 県庁第二庁舎 9階 第21会議室

3 協議内容

(1) 平成21年度アクションプラン中間評価の結果について

少人数学級や理数教育への支援はありがたい。今後も進めてほしい。

- ・特に少人数学級のニーズは高く、県教育委員会としても拡大したい気持ちはあるが、予算や定数の制約の中で取り組んでいるのが実情。
- ・来年度以降もなんとか現状維持を図りたいところ。
- ・理科支援員についても昨年10月以降の配置ではあったが、配置学校には好評なので来年度に向けて予算化を図っているところ。

企業や教員以外の公務員の中にも精神性疾患の者が増えている。鳥取県の教員の精神性疾患の状況はどうなっているか。

- ・同様に増加傾向であると認識している。
- ・今は対子どもばかりでなく、対保護者でまいてしまうケースもある。
- ・ある程度経験がある40代以降の教員も多い。
- ・企業でも病気とまではいえない症候群が多い。
- ・働きながら治療することも可能なので早期発見が鍵であり業務への影響も少なくすむ。
- ・学校現場でも気楽に相談できる体制作りが重要であるとする。

学校で保護者等とのトラブルがあったときに弁護士に相談するなどの体制はあるか。

- ・県教育委員会に相談があれば対応するが、制度化はしていない。
- ・市町村教育委員会における体制づくりが必要ではないかと考える。

(2) 新政権における主な教育関連施策について

事務局からの現況報告

(3) 学校評価について

第三者評価は、評価者のレベルを揃えたり、評価項目について共通理解を図ったりすることが重要。評価者によって評価が変わるようでは信頼性が薄くなる。研修の充実が課題。また、改善計画が出たらその実現のために人的、物的な措置は望めるのか。

- ・第三者評価検討委員会として県教育委員会に提言はしていきたい。
- ・提言を受けた県教育委員会がどうするかという問題は残るが...
- ・今後は、小中学校にも第三者評価が広がっていくと思うが、やはり評価者の質の向上が大きな課題である。
- ・特別支援学校の評価は大変難しいと感じているので、今後の重要課題である。

4 出席者

氏名	所 属 ・ 職 名 等	備 考
山岸 正明	鳥取大学名誉教授・セコム山陰株式会社システムデザイン部鳥取営業所顧問	委員長
横川貴恵子	鳥取市立若葉台小学校長	
高松 彰	前鳥取県PTA協議会副会長	
竹上 順子	株式会社インタープロス代表取締役	(欠席)
中嶋 邦彦	元鳥取短期大学幼児教育保育学科教授	(欠席)
由宇 忠司	鳥取ガス産業株式会社執行役員兼エネルギー事業チーム	臨時委員
安藤 順一	米子工業高等学校長	臨時委員
伊藤 幾子	鳥取東高等学校PTA副会長	臨時委員
前田 良明	元智頭急行株式会社代表取締役社長	臨時委員

(事務局)

上山 憲二	教育総務課教育企画室長	白井 靖二	小中学校課長
竹島 一郎	青少年・文教課企画員	福田 浩則	小中学校課義務教育主査